

先進校視察結果について

| 参加者状況 | 凌風学園 (11/13) | 東山開晴館 (11/16) | 計 |
|-------|--------------|---------------|-----------------|
| 社地域 | 9人 | 10人 | 19人/27人 (70.4%) |
| 滝野地域 | 6人 | 5人 | 11人/13人 (84.6%) |
| 東条地域 | 4人 | 8人 | 12人/13人 (92.3%) |
| 計 | 19人 | 23人 | 42人/53人 (79.2%) |

【アンケート結果】

■小中一貫教育の理念や目指すものについての理解が

| | |
|----------------|-----|
| 深まった（「少し」を含む。） | 42人 |
| 変わらない | 0人 |

■理解が深まった（参考になった）こと

| 分類 | 凌風学園 (11/13) | 東山開晴館 (11/16) |
|--------|--|---|
| 保護者・地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・開校に向け、意欲的な地域であること ・住民の協力を得ること | <ul style="list-style-type: none"> ・学校開校と運営に向けた地域住民の組織づくり |
| 児童・生徒 | <ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じたステップが必要（特に5年生） ・4、3、2制のメリット ・モデルとなる上級生がたくさんいることが重要 ・中学生が小学生の面倒をみることが重要 ・しっかりやればメリットしかない ・特別支援学級の成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ステージに応じてしっかり区分されていたこと（中1ギャップではなく、もっと細かいギャップ） ・小中の交流がしっかりできていること |
| 施設・設備 | <ul style="list-style-type: none"> ・施設の有利性は教育効果につながる（一体型・工夫） | <ul style="list-style-type: none"> ・目的をはっきりさせた校舎設計（一体型がベスト） |
| 教職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・9年間を意識した指導の大切さ ・小中教員の協力体制 ・学校の組織力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・9年間を意識した指導の大切さ ・小中学校教員の交流促進 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫校の良さがよくわかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫で小と中が一緒に勉強する意義がよくわかった。 ・一貫教育は今後必要である。 ・小中一貫の取組みを課題解決の絶好の機会と捉えたい。 |